

幼児教育に役立つ動画を配信中！

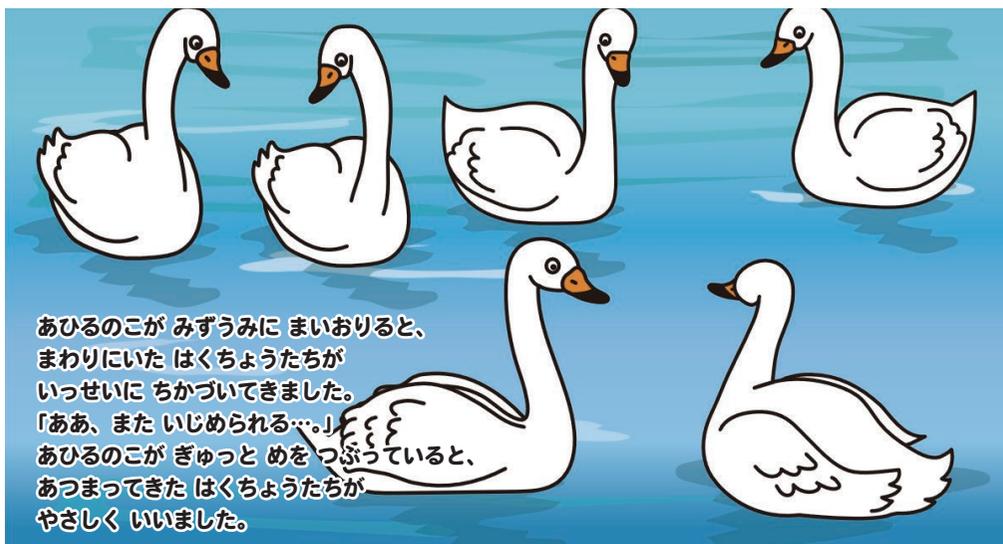


YouTube
のびラボチャンネル



幼児教育・小学校受験対策プリント
ダウンロード販売サイト
<https://www.nobilabo.com/>

©Nobilabo 2021 無断転載や内容を改ざんしての配布、転売などはご遠慮ください。



「ぼくたちの なかまですね。はじめまして。」
びっくりした あひるのこが、ふと すいめんをみると、そこに うつつていたのは、
もう みにくい あひるのこでは ありませんでした。
まっしろに ひかり かがやく はくちょうだったのです。



すると、なかから きいろい いろをした あひるの ひなたちが
げんきよく とびだして きました。
でも、すのなかの いちばん おおきな たまごだけ なかなか うまれて きません。



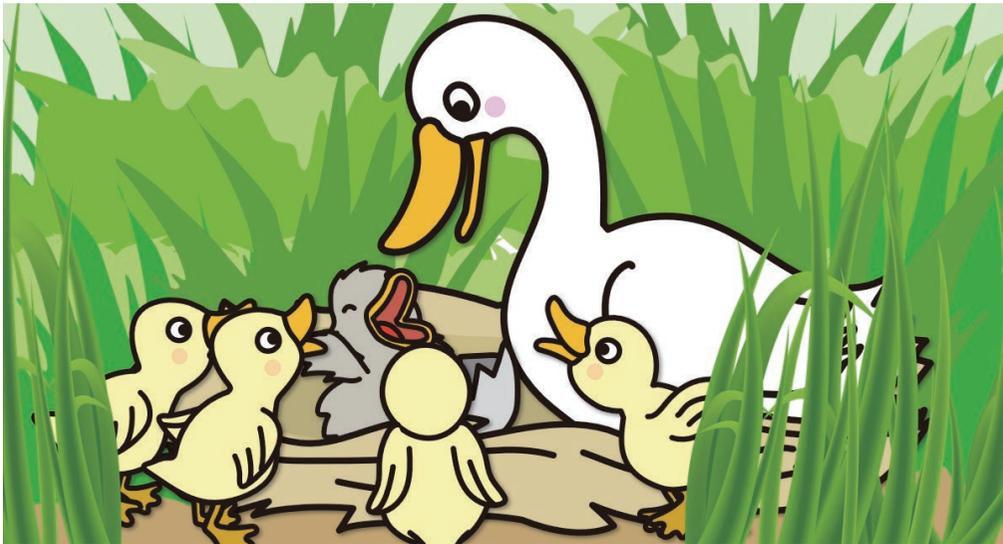
しげみのなかで、いちわの あひるの おかあさんが すのなかの たまごを あたためて いました。
パリン パリン…
やがて、たまごが われる おとが しはじめました。

1



なんと、ふゆの あいだに はねが めげかわり、
うつくしい はくちょうに すがたを かえていたのです。
はくちょうは、うつくしい はねを ひろげると、
なかまたちと いっしょに おおぞらに まいあがりしました。

22



あひるの おかあさんは、まいにち まいにち たまごを あたため つづけました。
なんにちも たって、やっと うまれてきた こは
とても からだが おおきく はいろの けを していました。

3



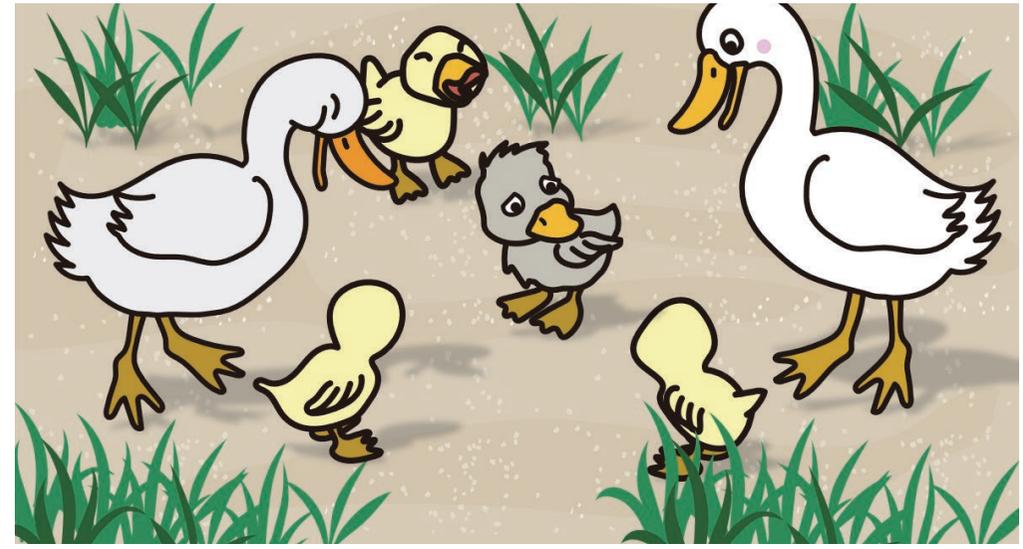
あひるのこは、ずいぶん おおきく なって いました。
あたたかくなると、きもちも うきうきはじめ、そっと つばさをはばたかせて みました。
すると、ふわりと からだが まいあがり しました。
「ああ、とんだ。ほくはとべるんだ!」

20



そのうち、だんだん あたたかくなり、みずうみの こおりが とけはじめました。
みずうみにも むしや さかななどで あふれ、
あひるのこは おなかいっぱい たべられるようになりました。
ついに、はるが きたのです。

19



「なんてみにくい あひるのこ だろう！」
みにきた きんじょの あひるたちが わらって いいました。
「きっと およげない しちめんちょうの こに ちがいないよ。」

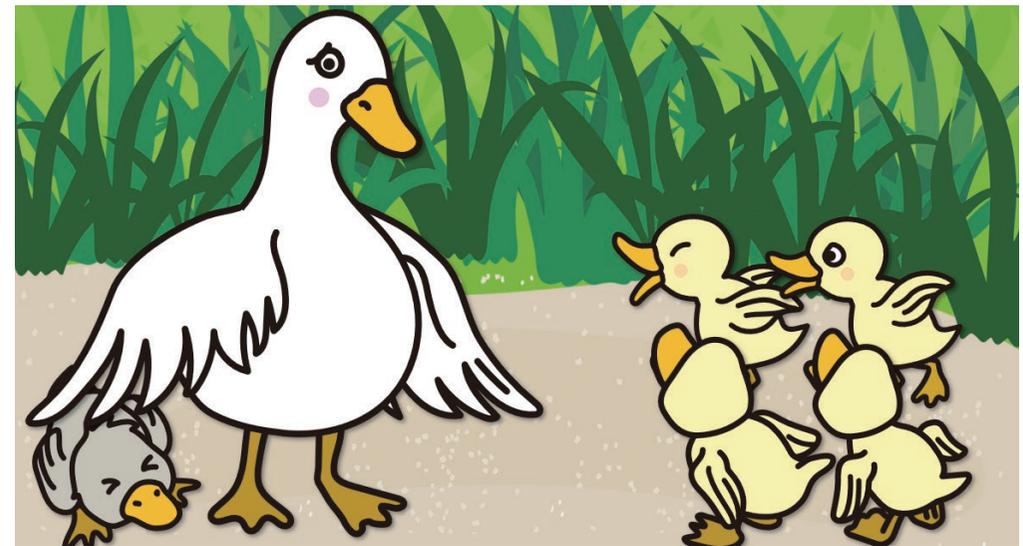
4



あきになりました。
あひるのこの めのまえに
おおきな みずうみが ひろがっていました。

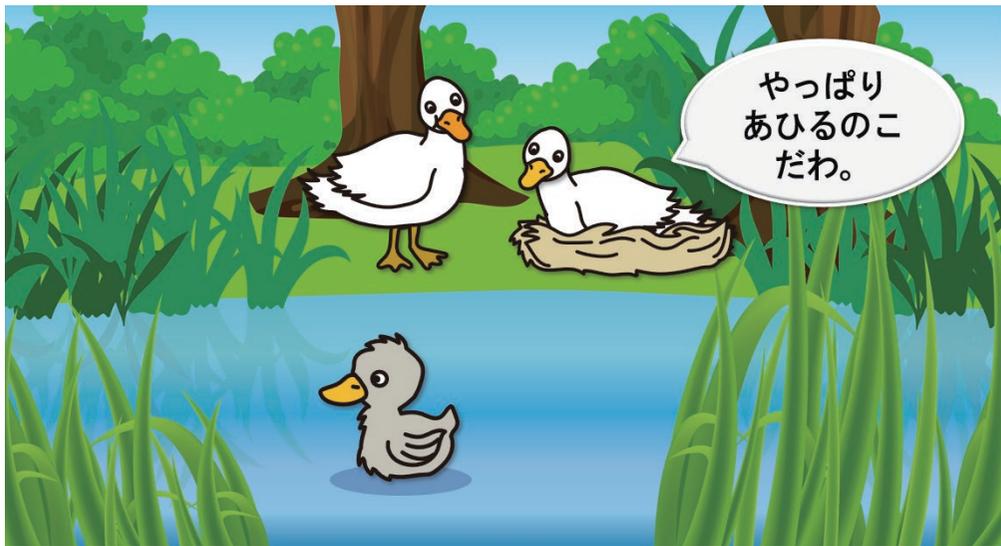
みずうみに まっしろい おおきな とりが いました。
「きれいだなあ。ほくも あんなふうになりたいなあ。」
あひるのこは、そのみずうみで およいだり もぐったりして、
ちいさなむしをつかまえて たべました。

17



おかあさんあひるは、みにくい あひるのこも ほかのこも おなじようにかわいがって そだてました。
けれども、ほかの きょうだいたちや おとなの あひるたちが よってきて ばかに するのでした。

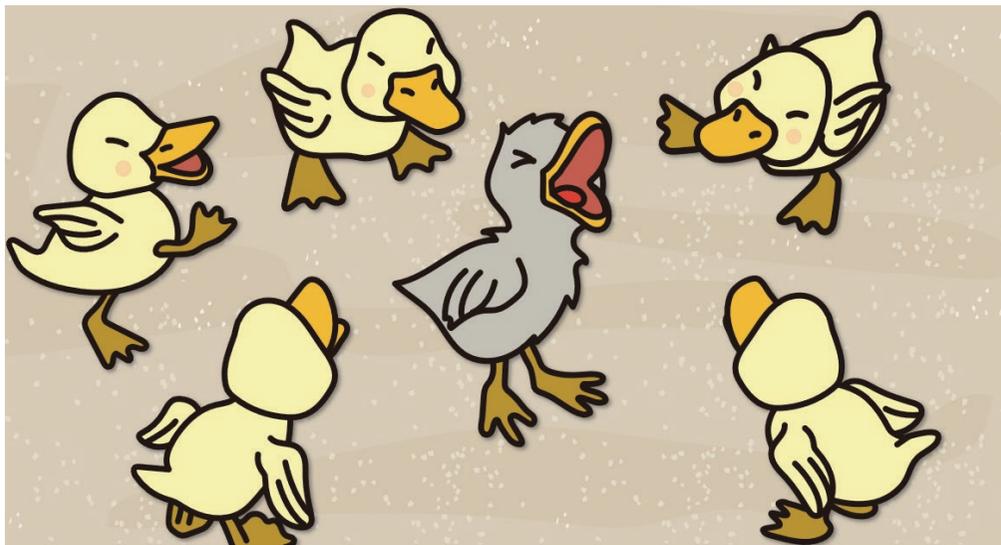
6



しかし、みにくい あひるのこは とても じょうずに すいすい およぎ はじめました。
 それをみて、おかあさんあひるは あんしん しました。
 「やっぱり このこは あひるのこ だよ。こんなに じょうずに およげるのだから。」



さむい さむい ふゆが やって きました。
 みずうみは こおりが はりはじめました。
 あひるのこは、しげみに じっと うずくまって、きびしい さむさを たえしのびました。



「あっちにいけ！みにくいやつめ。」
 きょうだいたちは、あひるのこが ちかづく と わいわい おおさわぎです。
 くちばしで つついたり、えさを よこどり されたり…。
 あひるのこは、まいにち いじめられて かなしくて たまりません。



ねこと めんどりに おいだされて、あひるのこは
 また とほとほ あるき はじめました。
 あひるのこは、なんにちも なんにちも たびを つづけました。



「おまえは なにが できるのかい。」
ねこが たずねました。
「およぐのが とくいです。」
あひるのこが こたえと、
「およぐのが うまくても
なんの やくにも
たたないよ。
ねずみが どれだけ
とれるのかい。」

ねこがおこったように いいました。
「たまごを まいにち うめるのかい？ うめなきゃ なんの やくにも たたないよ。」
めんどりが いじわるそうに いいました。



どうしたら
いいの？

おかあさん…

「かわいそうに…。どうしたら よいのかしら…。」
おかあさんは あひるのこを ふびんに おもい ためいきをつく ばかりです。



おうちが
ある！

「ぼくは ひとりぼっち…。」
くさむらをぬけ、もりのなかを あるきつづけると、
やがて いっけんの ちいさな いえを みつけました。



いって
しまうの？

そして、ゆうきを だして
おかあさんにはなしました。

「おかあさん、ぼくは たびに でたいと おもいます。きっと、こんな じぶんでも なかよくしたいと
いってくれる ともだちが みつかるかもしれないから。」
「まあ、たびに でるなんて…。こわいものも たくさん あるのよ。」おかあさんあひるは とめました、
あひるのこは はんたいを おしぎって でていきました。



あひるのこは、すいめんにうつるじぶんのすがたをみておもいました。
 「どうしてほくだけこんなにみにくいんだろう。」
 そして、「どこかにじぶんとなかよくしてくれるともだちがいるかもしれない。」
 とおもいました。



ドアのすきまから、あひるのこはそっとなかをのぞきました。
 そのいえにはねことめんどりがすんでいました。
 「すこしのあいだだけここにおいてもらえませんか。」
 あひるのこは、おずおずとたのみました。



どこまでもあるきつづけたあひるのこは、つかれはててついにくさむらのなかでねむってしまいました。めをさますと、まわりでさわぎだてるこえがします。
 「なんだ、このみにくいあひるのこは。」
 かもたちがとりかこんでわらっていました。あひるのこは、あわててにげだしました。



あひるのこがとほとほあるいていると、とつぜんめのまえにおおきないぬがあらわれました。いぬは、じいっとあひるのこをながめるとそのままとおりすぎていきました。
 「ぼくがあまりにもみにくいから、いぬもぼくのがきらいなんだ…。」
 あひるのこは、ますますかなしくなりました。